

芸術科「書道Ⅱ」シラバス	単位数	2単位	学年・学級	第2学年1～10組書道選択者
--------------	-----	-----	-------	----------------

1 学習の到達目標等

学習到達目標	<p>1 書道における創造的な活動をとおして、書を愛好する心情を育てる。</p> <p>2 書を楽しむ態度をとおして感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深めていく。</p> <p>3 1と2の学習をとおして、個性豊かな表現の能力と書の美しさを感じ取る鑑賞の能力を伸ばしていく。</p>
使用教科書・副教材等	<p>書道Ⅱ（教育出版） 新訂ペン習字教本（教育出版）</p> <p>視聴覚教材 書道道具一式</p>

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考	
1 学 期	一 篆書の学習	4	篆書とはどのような書体かを知り、歴史的な位置付けを理解します。	世界史の学習に関連する。 漢字の成り立ちに関連。 古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択する。	
	1 さまざまな篆書		石鼓文の鑑賞と臨書をとおして、篆書の特徴を理解し、基本的な用筆・運筆、結構を習得します。		
	2 篆書の特徴	5	召尊や甲骨文の鑑賞と臨書をとおして、古代文字の基本的な用筆・運筆、結構を習得します。		
	3 金文(召尊)・甲骨文の鑑賞と臨書		学習した古典の表現を生かし、篆書で創作作品を体験してみます。		
	4 篆書による創作と作品の鑑賞		二 隷書の学習		6
	1 さまざまな隷書	乙瑛碑、漢代木簡、石門頌、鮮于璜碑の鑑賞と臨書をとおして隷書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解します。			
	2 乙瑛碑の鑑賞と臨書	7	1学期に学習した内容を踏まえ、篆書及び隷書の半切作品に仕上げます。		
3 漢代木簡の鑑賞と臨書	三 1学期のまとめ				
2 学 期	四 草書の学習	9	草書の成立と歴史的な位置付けを理解します。	書道Ⅰでの学習の発展です。	
	1 草書の成立		基本的な草書の学習により、草書の特徴を把握します。		
	2 草書の特徴		書譜、十七帖等の鑑賞と臨書をとおして草書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その古典の比較により、それぞれの特徴を把握し草書による表現の多様性を理解します。		
	3 草書の名跡の鑑賞と臨書	五 行書の学習	10		書道Ⅰの学習を基に、行書に対する興味・関心を深め歴史的な位置付けを理解します。
	1 さまざまな行書	さまざまな行書の書風を鑑賞し、行書の表現の多様性を理解します。			
2 行書作品の鑑賞と臨書	集王聖教序・祭姪稿・蜀素帖などの臨書をとおしてその表現方法を習得します。				
3 重厚と軽快					

六 楷書の学習 1 均斉と均衡 2 頸直と重厚 3 温雅と雄健な小楷 4 楷書による創作と作品の鑑賞 七 2学期のまとめ	11 12	書道Ⅰにおける学習をもとに楷書の多様な表現にふれ、自らの個性を生かす古典を選択して学習を深めます。 学習した古典の表現を生かし、題材や形式を選択して創作を行い相互に鑑賞批評を行います。 2学期までに学習した内容を踏まえ、半切作品に仕上げます。	書道Ⅰでの学習の発展です。
八 仮名の書の学習 1 仮名の種類 2 仮名の書の特徴 3 高野切第一種の鑑賞と臨書 4 三色紙の鑑賞と散らし書きの学習 九漢字仮名交じりの書の学習 1 さまざまな表現 2 古名跡に学ぶ表現の工夫 3 創作／さまざまな表現の工夫 十生活に生きる書	1 2 3	仮名の種類、特に変体仮名の種類について学習し、理解を深めます。 仮名の書の臨書（主として高野切第一種）や鑑賞をとおして、表現技法を習得し、短冊や散らし書きなどの形式についても理解を深めます。 これまでの漢字及び仮名の学習を基に漢字仮名交じりの書の創作を行います。 詩文、形式、用具・用材、構成など工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性を表現する最良の方法を模索します。 生活に生きるさまざまな書にふれ、これまでの学習を今後どのように生かしていくかを考えます。	古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択する。 書道ⅠⅡの学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組む。 生涯にわたり書を愛好する心情を身に付けます。
<p>【課題・提出物等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎時間の学習内容は「学習ノート」に記録する。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルする。 3 単元ごとに「学習のまとめ」を行い自己評価する。 4 課題に応じて作品を提出する。 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 提出作品、「学習ノート」の記録状況、「学習のまとめ」の内容、用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で50%、「学習ノート」と「学習のまとめ」で15%、期末考査20%、学習活動への参加の態度で15%の配分で行います。 3 提出作品については漢字仮名交じりの書においては意図した表現に近づくことが出来たか、また漢字の書・仮名の書（臨書）においては対象となる古典の特徴を表現出来たか、創作作品においては自分の意図したように表現することができたかが評価の基準となります。 			

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といった様々な要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのために「学習ノート」はていねいに書きましょう。 ・創作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具などを積極的に選択していきましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始まりますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。 ・作品ファイルはきちんと整理しておきましょう。